

会津藩北方警備ゆかりの地交流都市共同宣言

文化5年(1808年)、通商を求め開国を促す強大国ロシアからの脅威に備え、会津藩が樺太・宗谷・利尻・松前の警備をしてから200周年を迎えました。

海を渡った1,600余名の藩士たちは、厳しい自然環境と水腫病などに耐えながらロシアの来襲に備えました。会津藩の厳格なる規律、統率力が幕府から高く評価される一方、50余名が遠き異郷の地で帰らぬ人となりました。

このような歴史を末永く継承し、また会津藩士たちを顕彰するため、稚内市、利尻富士町、利尻町では、200年経た現在でも藩士たちの墓を大切に守りつづけています。

本日、ゆかりの地であります稚内市長・利尻富士町長・利尻町長がここ会津若松市に集い、会津藩北方警備200周年記念事業への連携と協力、さらには、共通の歴史を礎とした今後の交流による地域の発展のため、次のことを確認しました。

- 1 会津藩北方警備という共有する歴史を先人からの貴重な遺産として永く後々の世代まで引き継ぎます。
- 2 教育・文化・産業・観光など相互の交流を通じて親善を深め、地域の発展をめざします。
- 3 住民交流を支援し、友好関係を深め地域社会の繁栄と発展を推進します。

以上宣言します。

平成20年7月4日

会津若松市長

菅 塚 一 郎

稚内市長

橋 田 耕 一

利尻富士町長

代理副町長 田 村 祥 三

利尻町長

田 島 順 逸